

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.5 (2016.8.26)

平成 28 年度スローガン
創業 140 周年に向けて！
みんなで目指す顧客感動経営
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

地球の裏側リオデジャネイロで開催されていましたオリンピックが 21 日閉会しました。日本は過去最多のメダルを獲得し、選手の皆さんは多くの感動を私たちにもたらしてくれました。今後は 4 年後の東京五輪に向けて施設整備が本格化し、練習会場の招致合戦など国全体が盛り上がっていくものと思います。また国では 2020 年までに外国人観光客数（インバウンド）を現在の 2 千万人から倍増の 4 千万人に目標を設定しております。現在東北地方を訪れるインバウンド数は 28 万人で、これは函館市 1 市の観光客数と同じです。福島の問題等があるにせよこの数値はあまりにも少なく、4 千万人から 2030 年はさらに 6 千万人に増やしたいとする国の施策を実現させるためには、東北地方が連携を強化して着地型ツーリズム戦略を立案することが喫緊の課題と言えます。

7 月 28 日に湯沢文会館で開催されました「東北中央自動車道新庄・湯沢間建設ビジョンフォーラム」では約 900 名の参加者を集め、まだ事業化されていない「金山町区間」と「及位～上院内区間」の早期事業化の要望大会決議が採択されました。インバウンドに限らず高速道路網が整備されていない地方への観光客誘致は、今後ますます厳しい状況となります。訪日外国人ひとり当たりの消費額は 40 万円が見込まれており、爆買いは期待できずとも宿泊や飲食・土産品購入などでの地元経済への効果は大いに期待できます。交流人口の増加は今後の地域活性化の切り札であり、当社としてもこの地域のインフラ整備を通じて社会に貢献して参りたいと考えております。



8 月 1 日午後 4 時、前述のフォーラムの報告書を持参して、国土交通省・財務省、秋田山形両県選出の国会議員、そして菅官房長官に要望活動をして参りました。整備が遅れている高規格道路は全国にあり、優先順位を付けなければならない国としては、地元の要望がどれだけ有るのかを判断材料にしているのが実情です。黙っていてもそのうち繋がるだろうというのは間違った考えです。雇用の改善に直結する企業誘致や観光振興そして災害時の冗長性（じょうちようせい）を確保するためにも道路整備は重要であり、全線事業化・全線供用開始の日まで要望を継続してまいります。

今年も絵灯ろうを出展



8 月 5 日～7 日に開催された七夕絵灯ろう祭りで、今年は「湯沢市観光物産協会賞」を頂きました。絵師は昨年同様石田布美さんです。

「NHK ニュースこまち」で取り上げられました



8 月 3 日放送ニュースこまちで当社の高卒採用への取り組みが紹介されました。少子化がもたらすのは深刻な人材不足であるとの危機感を視聴者の方々にご理解頂けたものと思います。皆さまからの情報提供宜しくお願いします。

ユニオン建設様より安全成績累積 1 万点



8 月 18 日ユニオン建設(株) 福田泰司社長が来社、安全成績累計 1 万点の感謝状を

頂きました。3 年前にも頂いており、この間最速で無事故表彰を頂いたもので、協力会社全体でもあまり例が無いとのこと。今後も当社の協力会社や鉄道工事部の皆さんを初め、会社全体で無事故無災害を達成すべく努力して参りましょう。

